

国際開発学会2015年春季大会

開発メカニズムと政策・支援 石川滋先生の貢献と現代の課題

コメント：ポスト2015時代における石川滋

山形辰史

(日本貿易振興機構アジア経済研究所)

報告者の視角とポイント

報告者	視角	ポイント
柳原透	開発経済学方法論	市場の低発達
高橋基樹	経済開発研究	→アフリカの家産的国家
下村恭民	開発政策・開発援助政策	石川プロジェクトの再現可能性
大野泉	開発援助実践	→エチオピアへの展開

ポスト2015時代における石川滋(1)

1. 成果主義の継承 (MDGsからSDGsへ)
 - 評価重視の潮流
2. 援助協調の行き詰まり (荒木 2015)
 - 良い子 (貧困削減の理想主義: レシピアント重視) の後退
 - 悪い子 (国益重視: スポンサー重視) の開き直り
 - 「環境」案件 (低所得国でなくともOK) への横滑り
 - 民間セクター案件への横滑り

ポスト2015時代における石川滋(2)

1. 演繹の復権(帰納重視の成果主義・評価主義への対抗)
 - どのようなメカニズムで発展するのか(柳原 近刊)
 - 市場の低発達、政治経済学
2. エチオピア・モデルの挑戦
 - 良い子としての石川プロジェクト(相手に合わせる)
 - 悪い子としての石川プロジェクト(bilateral)
 - エチオピア・モデルの新機軸(他ドナーとの協調・対比)
 - エチオピア・モデルの蹉跌(産業政策に限定)

おわりに: 石川滋を超えて

- 開発経済学が「介入効果のidentification」だけで終わるのは悲しい。
 - 政治経済分析の正統な継承者→Acemoglu and Robinson [2006], [2012]
- エチオピア・モデルから、いずこへ
 - 誰かと組まざるを得ない。
 - 東アジア(下村他編[2013])、民間(フィランソロピー、BOP)
 - 発信力があり、日本と同様に「誰か」を常に模索しているイギリスは、意識せざるを得ない。

参考文献

- 荒木光弥[2015]「アジアインフラ投資銀行と援助思想」(荒木光弥の「羅針盤」)『国際開発ジャーナル』No. 702 5月号 pp. 8-9.
- 下村恭民・大橋英夫・日本国際問題研究所編[2013]『中国の対外援助』日本経済評論社。
- 柳原透[近刊]「石川滋と国際開発政策研究」『アジア経済』.
- Acemoglu, Daron and James A. Robinson [2012], *Why Nations Fail*, Crown Publishers (鬼澤忍訳『国家はなぜ衰退するのか—権力・繁栄・貧困の起源』早川書房 2013年).
- Acemoglu, Daron and James A. Robinson [2006], *Economic Origins of Dictatorship and Democracy*, Cambridge University Press.